

# ワンガリ・マータイ ケニア共和国環境副大臣を歓迎

公害等調整委員会事務局

去る2月に毎日新聞社の招きで来日したワンガリ・マータイ ケニア共和国環境副大臣、2004年ノーベル平和賞受賞者の歓迎レセプションに加藤委員長が荒井審査官とともに出席しました。

マータイさんは、1977年に有志と「グリーンベルト運動」（非政府組織）を創設し、植林運動を開始しました。単なる自然保護運動ではなく、植林を通じて貧しい人々、特に女性の社会参加の意識を高め、女性の地位向上を含むケニア社会の民主化に結び付けようとした。この運動は、現在、ケニア全土に約1,500箇所、苗床を持ち、参加者も女性を中心に約8万人といわれ、今までに植林した苗木が3,000万本に達して、「植林はケニアの民主化のシンボルになった」といわれています。マータイさんは、2002年に国会議員に当選し、2003年には副環境相に就任しましたが、天然資源の保護と民主的な統治が平和のために必要であるという主張が評価され、2004年にアフリカの女性として初めてノーベル平和賞を受賞しました。

マータイさんは、昨年2月に気候変動枠組条約京都議定書発効記念行事等に出席のために来日し、その際、「もったいない」というわが国の伝統的な価値観、言葉に感銘を受けてそれ以来、それを世界に広めようと毎日新聞等が推進している「MOTTAINAIキャンペーン」の名誉会長として活躍しています。今回の来日は、共に運動を行っている娘のワンジェラさんと一緒に、このキャンペーンの推進とグリーンベルト運動のわが国での浸透を目指して、シンポジウムで市民への呼びかけ

を行ったりしました。

レセプションでは、小池環境大臣が「もったいない」を実践する風呂敷を紹介したところ、マータイさんからはわが国の歴史を生かした取り組みを評価すると同時に、ハイブリッド車等最先端技術を生かした持続可能な開発への取り組みが行われていることを賞賛し、ケニアへの技術移転等の支援の要請がありました。また、アウオウリ在京ケニア大使からもケニアとわが国との環境改善に向けての協力の推進について要望がありました。

加藤委員長からは、ほぼ同時代にアメリカに留学したことを話の皮切りにして、マータイさんにわが国の公害紛争処理制度とその現状について紹介したところ、ケニアでも公害紛争が起きていて、わが国の取り組みについて大いに興味があり、情報交換をしていきたいというお話でした。公害等調整委員会としても、今後情報の提供等を行い、交流を続けていく努力をすることとしています。

参考図書：モットイナイで地球は緑になる  
ワンガリ・マータイ（著）、Wangari Maathai（原著）、  
福岡 伸一（翻訳）、木楽舎



ワンガリ・マータイさん（右）と加藤委員長